

市役所におけるユニバーサルデザインの主な取組み

1 ジェンダー平等の推進

(1) ユニバーサルデザインのまちづくりにおける「男女共同参画の推進」

ユニバーサルデザイン推進基本指針では、「男女が互いにその人権を尊重しつつ、責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を発揮することができる社会をつくるため、ユニバーサルデザインの考え方により、市民、行政、民間団体、事業者が共通認識のもと、一体となった取組みを進めることにより、男女共同参画社会の形成をめざします。」としています。

(2) 松本市におけるジェンダー平等の推進

ジェンダー平等を、これからのまちづくりに欠くことのできない社会インフラとして位置づけ、多様性を認め合うことのできる地域社会の実現を目指しています。

(3) 松本市における取組状況

ア 市役所における女性管理職の比率

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
女性の割合	11.0%	14.4%	20.0%	25.0%

◆令和6年度の目標 30%

イ 市役所における男性職員の育児休業取得

男性職員の育児休業取得率向上等のための研究プロジェクトを立ち上げ、プロジェクトの提言を受け、育児休業取得に対する不安等解消のための相談員として、男性の育児休業取得経験者を取得サポーターとしてリスト化

男性職員の育児休業取得状況

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度※
取得者（対象者）	10（36）人	11（26）人	18（25）人
取得率	27.8%	42.3%	72.0%
平均取得日数	89.6日	25.6日	115.8日

※令和5年度は、1月末現在

ウ パートナースhip宣誓制度

令和3年4月1日から導入。宣誓者 12組（令和5年12月31日現在）

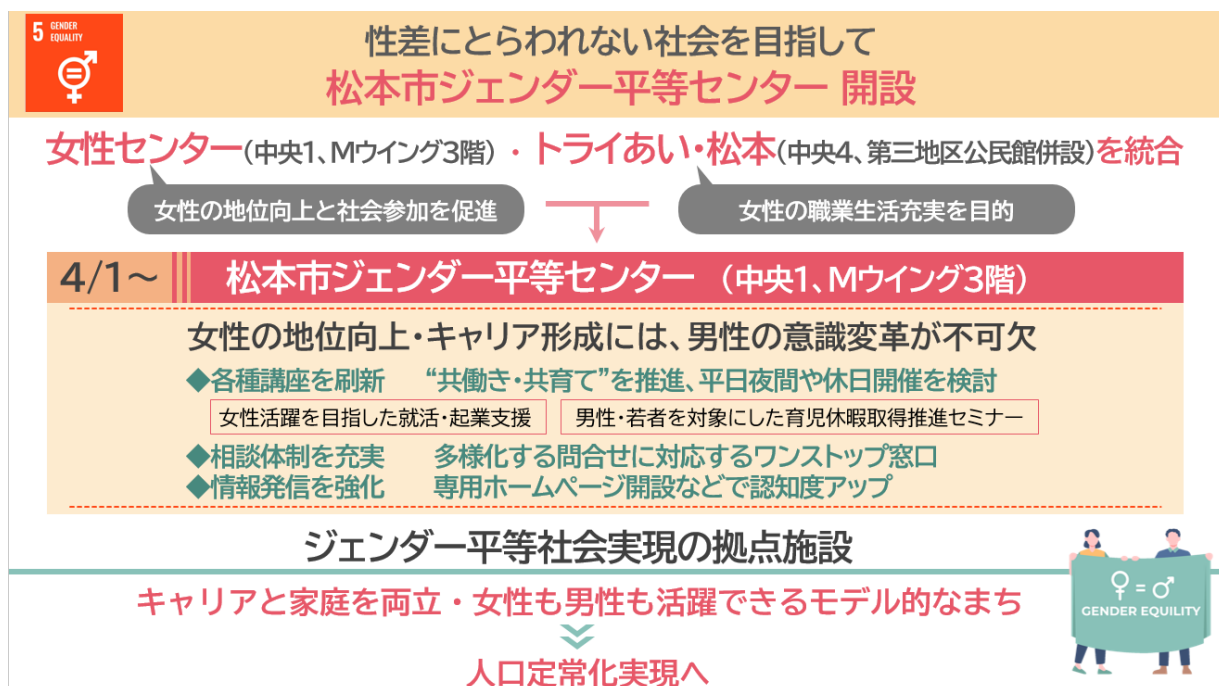
令和4年12月1日長野市との都市間連携協定の締結により、住所異動に伴う宣誓制度に係る手続の負担を軽減。

※県内導入市 松本市、駒ヶ根市、長野市、須坂市（令和5年12月1日現在）

(4) 最近の主な取組み

ア 松本市ジェンダー平等センターの開設

女性センターとトライあい・松本の2つの施設について、今後は、ジェンダー平等を主眼とする性別や年代にとらわれない活動の拠点施設として、2つの施設を令和6年4月に統合し、「松本市ジェンダー平等センター」として、利用対象の拡充と一層の機能強化を図ってまいります。



イ 性の多様性理解促進

多様な性への正しい知識の周知と性的マイノリティへの理解を深めるため、周知・啓発活動を行っています。

① 性の多様性小中学校講座（令和4年度～）

発達過程にある市内の全小中学校児童生徒に対し、性の多様性に関する情報を発信し、あらゆる違いを認め合える人権感覚を養成する講座を実施します。

動画を視聴する中学生



アルプちゃんが出演する啓発動画



② 性的マイノリティ専門相談（令和４年度～）

性自認や性的指向に関する悩みに対し、性的マイノリティ当事者等による専門相談を実施します（月１回程度）。

③ 性的マイノリティの若者の居場所づくり（令和６年度～）

１０代から２３歳までの性的マイノリティの若者同士の交流や、支援者とのつながりづくりに向けた居場所をＭウィング内に開設します。（年間２回程度を予定）

ウ 小中学校トイレの多目的トイレ改修

小中学校のトイレ洋式化に合わせ、性の多様性への対応を含め誰もが利用しやすいものとするため、小中学校への多目的トイレの設置を推進しています。近年のうちに長寿命化・改築の予定がなく、多目的トイレが無い学校を対象に実施

改修後の多目的トイレ



2 SDGｓ未来都市の選定

「SDGｓ未来都市」は、平成３０年度に創設された制度で、内閣府が、特に経済・社会・環境の三側面における価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を選定するもので、令和４年度までに１５４都市が選定されています。

松本市は、令和５年５月１９日に選定されました。

認定証を受け取る宮之本副市長



(1) 松本市SDGｓ未来都市計画 ～自分らしく生きるジェンダー平等のまち～

ジェンダー平等を都市に不可欠なインフラとして位置付ける中、地域資源を最大限に活用した循環型社会へと三ガク都まつもとを「シンカ」させ、一人ひとりが、ありのままの自分を大切にしながら、豊かさと幸せを実感できるまちを実現します。

三ガク都まつもとSDG s 未来都市 ～自分らしく生きるジェンダー平等のまち～

長野県松本市（2023年度選定）

1.地域特性と課題及び目標

松本市は、山岳地帯から松本平と呼ばれる盆地まで、標高差2,600mを超える変化に富んだ地勢が形成されている（面積は、978.47km²で県内最大）。2023年1月の住民基本台帳人口は、236,447人で、自然減が進む一方、社会増のプラス幅が増加傾向にある。

【地域資源】松本らしさを象徴する「岳都、楽都、学都」の三ガク都

岳：特別名勝・特別天然記念物 上高地等 楽：セイジ・オザワ 松本フェスティバル等 学：国宝旧開智学校校舎等

【主な課題】人口定常化、脱東京一極集中、地域の担い手確保、温暖化対策

【目標】女性と若者に選ばれ、首都圏等から人を惹きつける多様で魅力的なまちの実現

2.全体計画の概要

ジェンダー平等を都市に不可欠な社会インフラとして位置付ける中、地域資源を最大限に活用した循環型社会へと三ガク都まつもとを「シンカ」させ、一人ひとりが、ありのままの自分を大切にしながら、豊かさと幸せを実感できるまちを実現する。

3.関連するゴール



4.2030年のあるべき姿

〇三ガク都・まつもとのシンカ

「岳都」「楽都」「学都」

- ・松本の地域資源を最大限に活かした循環型社会
- ・このまちに暮らし集う一人ひとりが、ありのままの自分を大切にしながら、豊かさと幸せを実感できるまち

〇「人口定常化」を目指して

地方都市の先駆けとして、世代間の人口バランスが取れた「人口定常化」にチャレンジ

- ・加速する少子化・高齢化・人口減少問題への対応
- ・将来に希望を持ち、安心して結婚・出産・育児ができる環境の整備
- ・脱東京一極集中の流れや松本のポテンシャルを最大限に活かした自然増と社会増の促進

5.自治体SDGs推進等に向けた取組

【三側面の取組】

経 済（楽都）

- ・女性活躍の推進・多様な人材が働きやすい職場づくり
- ・地域資源を活用した稼げるコンテンツづくり

社 会（学都）

- ・地域による課題解決力の向上
- ・市民の足となる公共交通の維持

環 境（岳都）

- ・ゼロカーボンシティの実現
- ・身近な自然環境の利活用

【三側面をつなぐ統合的取組】

取組1 ジェンダー平等・多様性推進拠点の開設

ワンストップ窓口として「（仮称）SDG s ジェンダー平等推進センター」を開設し、プラットフォーム機能の構築及び相談業務を実施

取組2 企業・地域への意識啓発と働きかけ

社会インフラとしてのメインストリーム化、企業・地域へのアドバイス

取組3 女性視点の避難所づくり

ジェンダー平等や多様性の視点による避難所づくり推進

「ジェンダー平等」をまちづくりに欠くことのできない社会インフラに位置づけ



人口定常化を実現

6.他地域への展開見込（普及効果）

「ジェンダー平等」は、自治体規模の大小に関わらず、社会全体において目指すべき標準的なインフラ。女性を始め多様な人材が活躍できる社会を構築するための取組みは、様々な背景を持つ地域への普及展開性が高い。